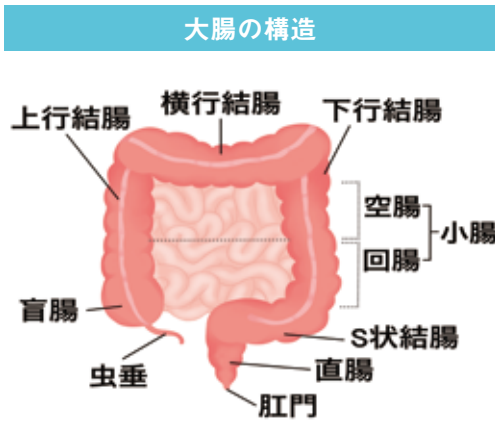




(公財) 福井県健康管理協会
臨床検査技師 稲葉 一郎

40歳を過ぎたら年に1度大腸がん検診を受けましょう



大腸がんは大腸に発生するがんで直腸がんとは結腸以外の結腸がんに分けられ、結腸がんが約66%、直腸がんが34%を占めます。

大腸がんとは

大腸がんは、早期に発見できると95%以上の人が治るといわれています。しかし、大腸がんは早期では自覚症状が現れない事が多く、自覚症状が現れた時には進行している可能性があります。

大腸がんは、男女とも40〜50歳代から増加をはじめ、加齢とともに上昇していきます。大腸がん検診で早期に発見し、適切な治療を受けることが大切です。

大腸がんにかかる人は増加傾向にあり、飲酒や喫煙、運動不足などが原因と考えられています。

大腸がんの罹患率と死亡数

がんの統計2021によれば男性は約10人に1人、女性は約12人に1人が一生のうち大腸がんを診断されます。

大腸がんの死亡数は、2019年で女性のがん死因の1位、男性のがん死因の3位となっています。

便潜血検査とは

便が大腸のがんがある部分を通過すると、便と大腸粘膜が擦れて出血します。大腸がん検診では、便に混じったわずかな血液の有無を調べる便潜血検査を行います。

出血は毎日あるとは限りませんが、2日分の便を採便棒で便の表面を「まんべんなく擦りとり」容器に入れるだけの簡単な検査です。簡単な検査ですが、大腸がん死亡を減らす確かな証拠があります。

注意点として、便の血液は常温では減少していくので提出するまでの間、冷蔵庫などの低温下で保管して

下さい。

便潜血検査で陽性だった場合

検査が陽性だった場合には大腸がんからの出血の可能性がありますので、必ず大腸内視鏡精密検査を受けてください。

40歳を過ぎたら年に1度大腸がん検診を受けましょう

便潜血検査は自宅で行うことができ、食事制限の必要もない簡単な検査です。市町の大腸がん検診は年に1回、男女とも40歳以上の方が対象で、自己負担金は年齢により無料から500円までとなります。是非お受けください。

